



長 崎 県
中小企業家同友会

DOYU

ニュース
21

E-mail jimu@nagasaki.doyu.jp
U R L http://www.nagasaki.doyu.jp

本部事務局 長崎市栄町1-20 大野ビル5F ☎(095)822-0680 FAX (095)824-4623

同友会理念を学び深め、21世紀を切り拓く企業づくりを ＝地域に根ざした人間尊重の企業づくりを＝

九州沖縄ブロック第5回支部長・支部活動研修交流会報告

日 時：5月26日～27日
会 場：熊本全日空ホテルニュースカイ
報告テーマ：学んだこととそれをどう活かすか？

島原支部長 敷島 広太

4月に支部長を仰せつかったばかりの私にとって、初参加で新鮮な気持ちで多くのことを知ることができ勉強になりました。

大きく分けて3つにまとめたいと思います。

1つ目に自分の会社が生き残る為の取り組み。2つ目に例会作りと会員拡大。3つ目に中小企業振興基本条例についてです。

1つ目の生き残る為の戦略としては、言い尽くされた感がありますが、改めて地域密着とオンリーワンが必要だと感じました。今まで以上にお客様の言葉を真剣に聞き、何を求めて何を必要としているかを中小ならではのきめ細かい小回りの聞くサービスで対応することが大事だと思いました。

また業界の将来を展望して今のうちに別の業種に取り組んだり、ライバルだったところと締結したりと今までの習慣にとらわれない発想の転換も必要では？と感じました。

2つ目の例会と会員拡大については、やはり基本にいい例会を作ることができれば、おのずと拡大につながっていくという認識は同じだったものの、現状の参加率や拡大方法については様々な取り組みがあり勉強になりました。また、退会者を出さないためには地道ではあるけれど細かな声掛けが一番有効であるということで、自分も今まで



植田教授を囲んで

以上に実行していきたいと思います。

中小企業振興基本条例では正直今まで難しい感じがあり、ピンとこなかったのですが、帯広の事例を聞いて自分の業界に本当に身近な話題で興味深い報告でした。

我が社でも地元の素材（できれば余って廃棄しているような）を利用したオリジナルの製品作りに是非挑戦したいと思います。

地元の資源を利用することで、話題にもなるし、どこにもないオンリーワンの商品作りとなるし、ヒットにつながれば連携する地域の産業も一緒に発展することができる。

そうすると雇用も生まれ理想的な地域貢献となれるのではないかと思います。

今回の研修は熊本という島原から1時間もかからない近場でしたので、もっと参加者を募ればよかったと思いました。来年は何人か一緒に連れて行きたいと思います。

目次

九州沖縄ブロック第5回支部長・支部活動 研修交流会報告	1	7月例会案内	10
例会報告	4	第1回例会委員会開催報告	11
船橋理事長崎県経営品質賞知事賞受賞 ..	9	理事会議事録抜粋	12
新入会員の皆さん	9	新事務局員紹介	12
		会員消息・会員数	12

代表理事 松尾 慶一

一年ぶりの研修会に参加して、多くの仲間たちと再会し刺激を受けました。個人的に数ヶ月前より親の介護で外泊が出来ず、結果二日間は熊本でもあり車で通いました。その中で、やはり同友会運動・活動を通じて同じ目的に向かって各県とも努力されていますが、組織力や歴史も違う中に常に革新をめざし工夫されています。また、新しい人事や起用でフレキシブルに対応しているなど感じました。なんとその中でも、私たち長崎同友会は高い評価を頂いています。それは柔軟に対応し他県の良いところを積極的に学び応用し取り入れて来ているからなのです。ひとえに会員さんの一人一人の協力が功を奏して来たのではないのでしょうか。この厳しい経営環境の中に新しい仲間が増え続ける長崎同友会は注目されています。

福岡 2,018、沖縄 937、熊本 745、大分 558、宮崎 410、鹿児島 334、佐賀 98、長崎 386、計 5,486 名の会員数は、先の県総会で講演をいただいた守代表率いる北海道同友会の 5,554 には少し及びませんが、今の取り組む意識をより高め全員であれば必ずや九州全体はもとより、長崎同友会としても今期の目標 500 名を達成し、私たちの目指す同友会像に少し近づいて行くのではないのでしょうか。

よい会社、黒字体質の企業を目指し、切磋琢磨して行かなければ成らないと再認識しました。是非皆さんと一緒になって、これからの仲間作りに活かし、楽しく活気のある組織を作って長崎を活性化させていきましょう。

大村支部長 宮田 正一

昨年に続き参加した。まず、支部役員の皆さんにもっと参加してほしかったと思っている。支部長として、この研修会に積極的に参加促進することが出来なかったことを反省している。非常に内容があり、また役員の皆さんに同友会の価値を感じてもらえるよい機会であったと思う。

1 日目、2 日目と連続してグループ長の機会をいただき、同友会のグループディスカッションの深さ・良さを再発見することが出来た。同じグループには、代表、副代表などのベテラン会員から、中堅役員、そして支部長 1 年目の会員などバラエティに富んだメンバー構成で、さまざまな意見や助言があり、とても参考になった。

各県で例会や委員会活動のやり方には差があり、会員の意識にも温度差があるようだった。特に中小企業振興条例への取り組みでは、かなりの

差を感じた。沖縄同友会は、県下での認知度が高くなり高いようである。地元の経済・産業団体の中でも高位置の評価を受けている様子であった。その中で、e-doyu に関しては長崎同友会がいちばん進んでいるようだ。使用率はもちろん、内容もいちばんのレベルかもしれない。また前述の中小企業振興条例の取り組みで、大村支部の現在までの動きは方向性としては間違っていないように感じた。さらに前進させるための力をもらうことが出来たかなと思っている。

佐世保支部長 千北 豊明

1. 学んだ事

(1) 中小企業を取り巻く情勢

- ①グローバル競争の時代である。後発国市場が拡大している。日本産業の国際競争力が低下している。地域の空洞化の時代である。産業構造の成熟化の時代である。
- ②東日本大震災による影響で、需要低迷になる。
- ③国内市場の縮小、グローバル競争の激化に巻き込まれる。
- ④自社の立ち位置と方向性の戦略が必要である。

(2) 振興条例の制定の意義

- ①地域と地域から逃げ出せない中小企業が中心になって、地域を支えざるを得ない。
- ②地方には、もう補助金は来ない。今後は地域の創造しかない。
- ③自治体は地域の創造的発展を成しえない。地域の中小企業の「知恵」を使う以外にない。
- ④現状は協力的関係ではない。行政幹部と中小企業家の現場認識の共有が必要である。
- ⑤地域の企業が話し合ってみないと、地域の問題点はわからない。
- ⑥自社で出来ることと、行政の支援が必要なことを明らかにする。
- ⑦自社が地域の重要な会社なのか明らかにする。

2. それをどう生かすか

(1) 経営環境の変化について

- ①支部で、経営環境の現状を議題とし、会員は SWOT 分析を行う。
- ②会員は、経営指針に戦略を反映する。

(2) 振興条例について

条例制定の取り組み方と、条例制定の事例とその役割を学ぶ。

今回久しぶりに県外開催の役員研修会に参加しました。今年度は佐世保支部障がい者問題担当副委員長という役です。最初は副委員長で参加してよいのか？とも思いましたが、震災後これから世の中どのように変わるのか大変知りたかったので参加しました。今回の研修会に参加してまず感じたのは研修内容も良かったのですが、その内容よりも「学ぼう」という気持ちの強い経営者の方々と接し、語り合ったことでした。私のグループには沖縄、宮崎、福岡、熊本の方々が震災後の各県の現状も聞くことが出来ました。

それでは初日の研修内容に移ります。まずは「中小企業をとりまく情勢をどうつかむか～東日本大震災後の課題も踏まえて」というタイトルでの植田教授のお話でした。企業経営者として先ずは情勢分析が大切である。マクロとミクロの視点を持ち時代の流れ、変化の方向を見極める。また見方として「自己中心」的な情報分析（※自分の会社を中心とした見方、分析のこと）が必要である。今後のキーワードの一つと思われたのが「変化」という言葉でした。構造の変化、市場の変化、地域の変化のなかで中小企業自身が自社のポジションをどこに位置づけるのが重要＝個々の中小業の置かれた状況、保有資源、戦略によって多様な発展方向がある。植田教授のお話を聞きながら私の頭に浮かんだのが、この重要な変化を見逃さないためにも、内に籠もらず同友会の例会に出席して他の会員と情報交換する。優等生的な発言ですが、素直にそのように思いました。

また二日目の「帯広市中小企業振興基本条例づくり」では、他の県の同友会では「中小企業振興基本条例づくり」の勉強会がかなり進んでいることがわかりました。自分の住んでいる町にあった条例をつくることにより中小企業の外部環境をよくして中小企業を発展させる。沖縄同友会では早くも条例ができています。今まで「中小企業憲章」という言葉だけで自分たちには無縁のものだ、要らないものだと思い込んでいました。しかし今回の研修会に参加したことにより多くの会員と議論しながら、日本を支える中小企業が一社でも多く生き残れるような条例づくりが急務であると気づきました。

帰りの車中、千北支部長、尾崎委員長と共に条例づくりの話であっという間に佐世保に到着しました。

現在、BRICsを始めとする後発国の市場拡大によって、“低品質でも安いモノ”が受け入れられています。日本の高品質、高価格という産業構造とは真逆であり、情勢に合わないということもあって国際競争力が低下しているという現状。（産業発展のジレンマ）

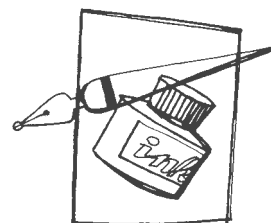
そういった最中、追い撃ちをかけるかのごとく発生した3月11日の東日本大震災。日本経済は今、二重の苦しみを味わっています。

このような状況から脱却するためには、単に「復興」するのではなく、時代の変化に対応できるように各中小企業が自社のポジションをどこに位置付けるのか、つまり、現在の状況の中で自社をどう発展させていくかといった「ビジョン」や「指針」といった経営者の中でのブレない芯というのが大事であるということを学びました。

日本の雇用、生活、地域経済、地域社会の基盤となっているのは中小企業です。震災が発生し危機的状況である今こそ中小企業の視点に立ち、中小企業がいかに大切かを明確に示すものが求められます。それが中小企業振興基本条例です。条例制定によって、地域経済に対する危機意識と中小企業振興の必要性に対する考え方や現在直面している問題を地域で共有した上で産・官・学の連携をもって対応し、実績を蓄積していった帯広市を例にとり学習しました。条例制定がゴールではなく、いかにそれを活かしていくかが重要。

同友会の会員の皆さんは、「ブレない芯」を持った経営者となるために学びあっています。それをサポートするために事務局としても経済情勢や地域振興基本条例に関して更に学びを深め、情報収集に注力していきます。地域振興基本条例においては、会員の方に対してその意義を認識していただくために、今回学んだことを積極的に発信していきます。また会にとっての官公庁や学術機関の窓口となるべく、定期的に訪問、面談し、連携の強化が大切と再認識しました。

会員の方にとっての真のパートナーとなるべく、これからも積極的に取り組んでいきます。



長崎浦上支部例会報告

日 時	5月18日（水）午後6時30分
会 場	ベストウェスタンプレミアホテル長崎
テ ー マ	儲かる会社の経営理念とは？
報 告 者	永池税理士事務所 所長 永池 泰典 会員

長崎浦上支部の5月例会は、支部会員の永池税理士事務所所長永池泰典氏に報告頂きました。

テーマは、「儲かる会社の経営理念とは？」と題しまして、会社の目的である利潤の追求という事項について、具体的な事例をあげ、永年の経験と実績から経営理念・経営方針・経営計画についてお話し頂きました。

例えば、長崎の経営者は、優秀な技術者・職人・営業マンだった人が多いこと。

経営能力については努力の必要性が高いと思われること。

経営理念は難しく考えないことが大切であり、



自分の会社が良くなるためには何をすべきかということの基本にすれば入っていきやすいのではないかと。

経営環境の変遷と共に、経営指針の目的も変化していること。

消費者のニーズが変わってきている中、経営革新（事業領域の見直し）を考えてみてはという提案もされ、失敗例、成功例を上げ具体的にわかりやすく、報告して頂きました。

また同友会は、体験的に共に学べるところであることも強調され、今期経営指針グループ学習会を開き、実現性の高い経営計画のために実践していることを高く評価されておりました。

今回の報告の内容を聞いて自分の会社でも試みようと、参考になりました。

報告後のディスカッションテーマ「あなたが今、一番すべき事は何かと思いますか？」についても、私自身まさに日々思うことと合致するものでした。

非常に有意義な学びのひとつでした。

お忙しい中例会ご出席の皆さん、報告して頂きました永池さん 本当にありがとうございました。

（文責 西山 展司）



新入会員の清水さん

長崎出島支部例会報告

日 時	5月16日（月）午後6時25分
会 場	サンプリエール
テ ー マ	「龍馬はどう行動したか」
報 告 者	経営開発(株) 代表取締役 中島 忠男 会員



今月は、経営開発(株)代表取締役の中島忠男氏をお招きし「龍馬はどう行動したか」のテーマで報告していただきました。

このテーマは1988年9月ホテルニュー長崎にて行われた第16回青年経営者全国交流会で報告されたもので報告内容を凝縮していただきお



話いただきました。

お話は、竜馬の誕生からはじまり、脱藩後に神戸海軍総練所塾頭を務め、総練所の廃止後、

わずか2ヶ月で「亀山社中」を設立し商社活動をはじめた話、「船中八策」を起草し、その年の竜馬誕生日（1967年11月15日）に刺客に襲われ亡くなるまでの話をしていただきました。動乱の中、竜馬がどう行動して日本を変えようとしていたのか、とても臨場感がある話でした。

また竜馬が影響を与えた「亀山社中」が後に「海援隊」となり、岩崎弥太郎が海援隊商法、商事契約をそのまま継承し三菱発足の礎となった話は、この長崎の地で繰り広げられた事かと思うと身が

引き締まる気持ちと共に、竜馬をはじめ当時の人物の志の高さを感じました。なかでも「海援隊商法」や「海援隊商事契約」に関しては、1867年に作られたと思えないほどの内容で、現在のビジネスの基礎と成していると思いました。

グループディスカッションのテーマ「歴史を学び我社の経営指針にどう活かしていくのか」について議論し、出席会員は、竜馬の熱意や行動力の素晴らしさを語り、今の日本にも竜馬のようなリーダーが必要との声も出ていました。

この報告内容は前述のように1988年に報告された事でしたが、当時はチェルノブイリ原発事故があり世界的に暗いムードの中の報告だったそうです。今回は偶然にも東日本大震災や福島原発事故で日本が暗いムードの中の報告でした。もしかすると150年以上前、日本に影響を与えた竜馬の想いを蘇らせる事も日本復興のひとつなのかもしれないと思いました。

(文責 加瀬 和利)

県央ブロック例会報告

日 時	5月19日(木) 午後7時
会 場	諫早観光ホテル 道具屋
テ ー マ	29年でやっとスローガン(理念)が出来た！ ～「きっと良くなる」 あなたの未来を応援します～
報 告 者	(株)諫早スイミング 代表取締役 平湯 湧一 会員(諫早支部)



報告者の平湯湧一会員



金井新ブロック長の挨拶

今回の例会は、大村・諫早・島原支部が集まり、県央ブロック3支部合同例会として開催されました。会員及びオブザーバーとして多数の方々が参加されました。

ブロック長挨拶のあとは、各支部長より新入会員のバッジ贈呈式が行われ、また新しい会員

が増えて大変良かったと思います。

今回は「29年でやっとスローガン(理念)が

出来た！」をテーマに～「きっと良くなる」あなたの未来を応援します～のスローガンが出来るまでを諫早支部会員の平湯 湧一氏に報告して頂きました。

ご自身の経歴や、事業所の沿革など詳細にわたってお話しされて、経営理念を作成するまでの経緯や苦労などこれも事細かくお話しして頂きました。中でも「心の不在」のお話は一番心に残るもので、お客様のことを一番に思う事を今一度考えさせられました。4つの経営理念の中にそれがよく表れていると思います。

この経営理念があつてこそ、スローガンなのではないかと思いました。

グループディスカッションでは、報告を聞いての感想や自社に取り入れたい事など、沢山の意見が出ていました。私自身も社員同士のコミュニケーションの取り方など大変参考になりました。その後は懇親交流会で会員同士の更なるディスカッションが繰り広げられ充実した例会だったと思います。今回参加する事が出来て大変勉強になりました。

(文責 大村支部 小瀨 新二)

(株)諫早スイミングの平湯湧一さんは二代目社長です。元々諫早スイミングはお兄さんが始められた会社です。平湯さん自身は昭和49年に平湯物産という会社を作り、いけ洲設備の販売を始めら

レンタル一筋四十年

無料で ロゴ社名入りマットを製作

- ☆空気清浄機 ☆キャビネットタオル ☆ハンドドライア
- ☆浄水器 ☆アルカリ整水器 ☆各種モップ
- ☆玄関マット ☆エレベーターマット

(有)ダスキン栄進

電話 095-823-7633
Fax 095-823-7656

おかげさまで創業32周年

有限会社 プライアント 保険

Tel : 0956-28-2425 <http://www.pliant.jp>

- 本 店 佐世保市日野町70-4
- 日野支店 佐世保市日野町1828-49 2F
- 来店型ほけんショップ 佐世保市日野町1828-49 1F



れました。当時、カンと経験と度胸でやっていましたが、その当時は和食店などでのいけ洲ブームに乗って売り上げはどんどん上がって行ったそうです。かたや諫早スイミングのほうもスイミングブームにのり2店舗目を出され、生徒数もどんどん増えて売り上げも上がり営業利益も当然のように出ておりました。諫早スイミング初代社長のお兄さんが平成7年にお亡くなりになりましたのでお兄さんの後をついでご自分が社長になられました。

平湯物産と諫早スイミングの二つの会社の社長をすることになりましたが、諫早スイミングの若い社員さんの中では今まで通りの経営方法ではなかなかうまくまとめていく事が出来ませんでした。社長一年目で退職者が始め「社員の事が分からない」と悩んでいたときに福岡同友会の経営改革の勉強会に参加して初めて自分に問題があることに気がつきました。感性の勉強をし、経営理念を作り社員さんと何をやるかを考え、社員さんとコミュニケーションをとっていきましたが業績は悪化していきました。

同友会の経営フォーラムで「ビジネスはお金のやり取りだ」ということを改めて悟り、お客様を

忘れた経営をやっていることに気がつかれました。しかし当時は社員さんとも距離ができてきて（新入社員の分からない所が分からない、社員のやる気をどうしたら出す事が出来るかわからない）このままではいけない。社員をどう動かすかが最重要課題だと考えました。社員さんとの新たな信頼関係作りが大切だ。そう思い社員さんを最高のパートナーと考えて会社を改革していかなれました。「社員にやる気を出させてどう動かすかが重要だ。それならスローガンも全社員を巻き込んで作ろう」と、そして社員全員でスローガンを作りました。

作ったスローガンがこれです。～「きっとよくなる」あなたの未来を応援します～、このスローガンは今までの経営理念よりも重いスローガンです。このスローガンの下で社員全員がお客様が困っていることを真剣に考えて仕事に取り組みます。平湯さんは言われます。同友会は新しい人材人脈を見つめることが出来る場です。そして決してあきらめない。あきらめない心を学んだと結ばれました。

(文責 諫早支部 山田 圭一)

佐世保支部例会報告

日 時	5月20日(金) 午後7時
会 場	佐世保市民会館
テ ー マ	「営業に不可欠なPDCA」
報 告 者	(株)クリーンマット 取締役 経営企画室長 吉岡 勇治 氏

報告者は元会員で、前期まで例会委員長の吉岡勇治氏。今回座長制を復活させ、私が担当で行いました。戸惑いもありましたが、何とか無事に進行出来ました。

本日のテーマは、「営業に不可欠なPDCA」という議題で報告が始まり、青春時代の思い出から、小学校・中学校は悪ガキ親分肌で、勉強はしない。高校になると、不良ざんまい、トラブル続きだった吉岡氏。しかし彼は、その中で、商売・



人を見る目、価値観、基礎を構築したようです。

昭和58年にホテルに就職、しかし、土・日・祝祭日の仕事が嫌で1年で退社。

その後、クリーンマットに入社。社員は8名、毎夜11時まで、仕事・仕事の連続。昭和59年営業スタート、平成6年営業支援/電算担当(ワープロをこの時代に勉強)、平成12年総務経理事、平成19年取締役就任現在に至る。苦難平成13年会社は黒字なのに資金繰りに苦慮、寝ても



覚めても資金繰り、会社に経理的考え存在なし。売上重視の経営、利益目標なし、ここで無計画な経営からの脱却。



新入会員の木竹さん 支部長としっかりと握手！

営業に不可欠なP D C A (経営計画書) を作るだけに満足していた。P (計画) の後はひたすらD O (行動) あるのみ。足らなかったC (C heck = 確認) とA (A ction= 見直し)。

これらを平成18年から見直しをスタート。沢山作って喜んでいた経営企画書を部門のシート毎の1シートにまとめ「年度方針展開表」として作成。毎月10日前後に月次決算を基に経営会議を実施。半期毎に見直し実施するスタイルを定着させました。

なぜ佐世保に来たのか。佐世保支店は赤字で問題視し対策をと言いつつ続けたら、社長から、黒字にして来いとの一言。負けん気魂に火がついて佐世保を1年で黒字。帰ってこいの一声で本社へ。

グループディスカッションでは、「自社のP D C Aをどう取り組むか！」をテーマに討論。P・Dは出来るがC・Aは…という意見が多いように思われた。また彼は50年後の会社を見つめ会社運営をして行くと思われます。

たった2年でしたが、佐世保支部は彼がいたおかげで良い勉強が出来ました。いつも笑顔でやる時はやる。この勢いを見習い、佐世保支部も頑張っています。

(文責 川上 利夫)

北松浦支部総会・例会報告

日 時	5月30日(月) 午後7時
会 場	サンパーク吉井
テ ー マ	北松浦支部の方針発表
報 告 者	富川栄治 新支部長

5月例会の前に2011年度総会を開催しました。2010年度支部長 松永さんへの御礼と感謝の挨拶に始まり、30名中18名出席、委任状4名という定数の確認後、富川副支部長が議長に選出されました。2010年度活動報告、決算報告及び監査報告、役員改選、2011年度活動方針(案)、が説明され、満場一致にて承認され、スムーズな進行で総会が終了いたしました。引き続き、5月度例会が開催されました。新入会員の紹介では、堤会員が自己紹介され、早速7月例会



堤さん、共に学び合いましょう！

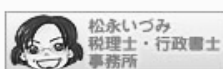
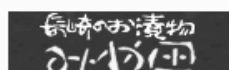
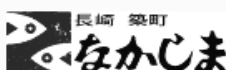
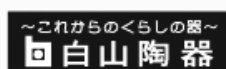
において報告をいただく予定です。次に報告として富川新支部長より、まず、今後の活動方針というテーマで、1、例会の充実、会員

の役に立つ情報の提供。2、他支部との交流。3、会員拡大。4、役に立つ経営の勉強会の実施。ということで、それぞれに詳細な説明を熱く語っていただきました。また、本年度は委員会に全員配属することで、役割分担をし、委員長、副委員長に負担が偏らないようにされました。その後各

ホームページのバナー広告を募集しています！

●お問い合わせ●

事務局まで
(月500円です)



委員会の委員長よりそれぞれの活動方針が説明されました

続いて、各委員会に分かれてのグループディスカッションでは、「同友会への期待」というテーマで、各委員会の役割分担、活動方針内容の確認と取り組みが議論されました。それぞれに活発な意見がだされ、さらに充実した活動が期待できると確信いたしております。終了後、再びその熱い想いを、各委員会より発表していただき、熱い想いを共有することができました。

今回は、通常の例会とは異なりましたが、節目と



して、全員で1年間の方針を共有できる貴重な時間となりました。

(文責 吉永 満也)

青年経営者会例会報告

日 時	5月14日(土) 午後7時
会 場	プライムステージ 3階 会議室
テ ー マ	「転落 or 転楽」 ～サラリーマンになって～
報 告 者	長崎ビニール工業(株) 平川 茂 氏

今回の青年経営者会は、同友会の元会員でもある平川茂氏に報告をしていただきました。平川氏は塗装会社の経営者を平成13年から平成17年1月までされていました。しかし事情により廃業して、平成17年7月からは同友会の会員でもある出口隆三氏の会社「長崎ビニール工業(株)」に入社し、サラリーマンとしての道を歩んでこられました。その平川氏に社員の目線から考える理想の社長像や社員教育について実体験をもとに語っていただきました。

サラリーマンになった時、平川氏は「転楽」と感じたそうです。経営者時代の一番の悩みであった仕事や経営、お金等の責任から解放されたからです。



また立場の違いによって視点や考え方、価値観の差は生じてしまいます。社員という立場になって、自分の経営者時代の欠点

や改善すべき点に気づいたということでした。

平川氏の話を聞いて、やはり社員とのコミュニケーションは大切だと実感しました。仕事の進め方について話しあったり、改善すべき点をお互いに解決したり、会社の進む方向を明確に提示したりと。自分にも当てはまる部分があり、これからの参考にしたいと思いました。

例会の反省点としては、参加人数が少なかったという点でした。もっと積極的に活動し、青年経営者会内で切磋琢磨して、これからの長崎の経済や同友会を盛り上げていきたいと思います。

(文責 橋本 裕次郎)



中小企業家同友会全国協議会 第43回定時総会 in 北海道 2011年7月5日(火)～6日(水)

主 会 場：ロイトン札幌
サブ会場：さっぽろ芸術文化の館
参 加 費：20,000円(宿泊代別)

船橋理事 長崎県経営品質賞 知事賞受賞 !!



企業変革支援プログラム推進委員長 船橋理事（九州教員（株） ホテル事業部）が、長崎県経営品質賞最高位の知事賞を受賞され、5月11日、長崎全日空ホテルグラバーヒルにて表彰式が開催されました。

2006年に奨励賞（事務機事業部）、2007年に経営革新賞（ホテル事業部）を受賞。

今回は、以下の3点が特に高く評価されての受賞となりました。

1. 品質向上委員会を組織して、現場のことは現場に権限移譲している。
2. ホスピタリティの提供を目指して種々の取り組みをしている。
3. お客様や地域を巻き込んだ社会貢献活動や、先駆的なコンプライアンス活動に取り組んでいる。

「お客様や社員の声なき声を聴く」をモットーとし、邁進してきた結果です。」と船橋理事。

船橋理事、本当におめでとうございます！

新入会員の皆さんです

（敬称略）

支 部 名	大 村	
氏 名	たかひら まさふみ 高平 雅文	
企 業 名	高平社会保険労務士事務所	
役 職 名	所 長	
企 業 住 所	〒856-0825 大村市西三城町19-1	
T E L	0957-54-5394	
F A X	0957-54-5396	
業 種	社会保険労務士	
企 業 P R	当事務所は、適切な労務管理体制を構築する事で、経営者は経営に専念し、従業員が能力を発揮できる環境づくりを提案いたします。	
スポンサー	首藤 洋一	

支 部 名	諫 早	
氏 名	さかい いくこ 酒井 郁子	
企 業 名	㈱エフエム諫早	
役 職 名	ラジオ局長	
企 業 住 所	〒854-0061 諫早市宇都町29-1	
T E L	0957-27-0771	
F A X	0957-27-0840	
業 種	放 送	
企 業 P R	地域密着のじげもんラジオ局です。生活情報・音楽等を盛り沢山で放送しています。スポンサー大募集中！	
スポンサー	福田 博文	

支 部 名	島 原		
氏 名	あらき まこと 荒木 亮		
企 業 名	荒木電器		
企 業 住 所	〒859-1502 南島原市深江町乙965		
T E L	0957-72-2613	F A X	0957-72-3770
業 種	家電製品販売・工事業		
企 業 P R	経営理念 『お客様と共に、「ひと」と共に』 荒木電器がなにより大切にしているのは「ひと」と「ひと」とのつながり。私たちはお店を通じ、多くの価値と幸せ、出会いを創造し、社会に貢献できることを喜びにしています。		
スポンサー	敷島 広太		

< 会員交代 >

支 部 名	佐世保	
氏 名	さるわたり あきら 猿渡 彰	
企 業 名	㈱クリーンマット	
役 職 名	所 長	
企 業 住 所	〒857-1162 佐世保市卸本町16番2号	
T E L	0956-32-8488	
F A X	0956-31-8000	
業 種	リネンサプライ業	
企 業 P R	リネンサプライ業（マット・モップ等のレンタル）とビル管理業（ビル清掃・請負・管理）をしている会社です。	
前 会 員	吉岡 勇治	
スポンサー	松尾 慶一	

7 月例会案内

●長崎浦上支部

日 時 7月19日(火) 午後6時30分
会 場 ギャラリーヘキサ
テ - マ 「経営指針に挑戦する」
＜同友会の中で失敗と恥をかきまくる＞

報 告 者 (株)ヤマハマリン西九州 代表取締役社長
吉澤 健 会員

ヤマハ発動機(株)で30年営業として活躍し、2年前に今の会社の社長に抜擢されて長崎に上陸したそうです。新しい環境でいろいろと苦悩もあったと思います。去年の9月に偶然、諫早で開催されたフォーラムの案内を目にして参加され、すぐ同友会に入会する事になりました。勧誘ではなく自分から入会しためずらしい人です。同友会でどん欲に学ぼうとする姿を体感して、初心に帰ってみるのもよいと思います。

●長崎出島支部

日 時 7月20日(水) 午後6時30分
会 場 サンプリエール
テ - マ 東長崎エコタウンプロジェクト(仮)
報 告 者 長崎総合科学大学 工学博士
産官学連携センター長
池上 国広 教授

多連結浮体システムの風力発電や燃料電池、バイオマスなどの新エネルギーを街を作り上げていく、東長崎におけるエコタウン構想、街造りシステムに関してお話いただきます。

●諫早支部

日 時 7月21日(木) 午後7時
会 場 諫早観光ホテル 道具屋
テ - マ 未定
報 告 者 井手雅康税理士事務所 所長
井手 雅康 会員

業績が良い会社とは？悪い会社とは？そのような疑問を税理士の立場で具体的にお話ししていただきます。また、良い経営者・悪い経営者とはどのようなものかなど、数値にとらわれることなく、これまでの経験に基づきながらご報告いただきます。

●島原支部

日 時 7月14日(木) 午後7時
会 場 ホテル南風楼
テ - マ 歴史に学ぶ経営戦略の立て方
報 告 者 元島原市教育長
宮崎 金助 氏

日本の歴史を変えた幕末の英雄の話を元に、経営戦略についてお話して頂きます。

●大村支部

日 時 7月23日(土) 午後6時
会 場 長崎インターナショナルホテル
テ - マ 「中小企業振興条例」で地域をつくる
～「中小企業振興基本条例」学習会～

報 告 者 千葉県商工労働部経済政策課
副参事兼政策室長
篠崎 千尋 氏
千葉県中小企業家同友会 事務局長
川西 洋史 氏

2010年6月18日、「中小企業憲章」が閣議決定されました。これを受けて全国の自治体において、「中小企業振興基本条例」制定へ向けた動きが目立ってきています。これについての先進事例を基に、「自治体の力」を活用し、中小企業と市民と行政の協同による元気な地域づくりと一緒に学習したいと思います。

●佐世保支部

日 時 7月15日(金) 午後7時
会 場 佐世保市民会館
テ - マ 未定
報 告 者 (株)T・Y・Dメタル 総括本部長
湯浅 昇治 会員

スクラップ業の変革をし、また自分の故郷を少しでも環境面で昔に戻したい、という思いで仕事に取り組みされている湯浅会員の、新たなリサイクルシステム挑戦を報告します。

●北松浦支部

日 時 7月21日(木)
会 場 サンパーク吉井
テ - マ 「人生を語る」
報 告 者 元銀行員
金子 好延 氏

30年近く金融機関に勤務された経験を踏まえ、我ら中小企業経営者にアドバイスを頂きます。

●青年経営者会

日 時 7月27日(水)
会 場 秋月園&お茶 CAFE ふたつの葉
テ - マ 会員企業訪問例会
「お茶の秘密を学ぼう！」
報 告 者 (有)お茶の秋月園 代表取締役
秋月 徹雄 会員(長崎浦上支部)

内 容 青年経営者会7月例会は、青経前幹事長の秋月会員の会社を訪問させて頂き、お茶の魅力や、今年2月にオープンされた「お茶 CAFE ふたつの葉」について、現地で報告して頂きます。

2011年度 第1回例会委員会開催報告

日時 2011年5月21日(土)

会場 つくば倶楽部
和室会議室

「全国大会参加促進」と「質の高い支部例会」をめざして！」

近年のCO₂削減と、今年は特に原発ドミノで、九州地域も夏場の電力不足が懸念され、建物の空調も、少し高めに設定されているようです。

団扇や扇子の利用も、先様に失礼なく上手に使えるコツはあるものかと？5月というのに、蒸し暑いさなかではありましたが、第1回例会委員会を、5月21日(土)13:00より開催いたしました。当委員会は、もちろんクールビズでのご参加はもとより、団扇や扇子はどしどしご利用されてもかまわなかったのですが、事前にお知らせしとけばよかったと、少し後悔…。それでも、各支部より総勢10名(事務局・当方も含め総勢12名)のご参加をいただき、闊達なディスカッションや意見交換ができましたので、ご報告いたします。

最初に「なぜ、同友会の例会では会員の経営体験報告を行っているのか？」を問題提起し、第40回定時総会に示した、支部の活動方針の中の支部例会について、支部例会委員長より、報告を頂きました。

例会と増強の共同委員会の設置や、例会と情報広報の共同体制による「質の高い例会」、あるいは地域への情報発信力の構築をめざし「例会の充実」を図るなど、新たな取り組みを開始した支部もあります。あるいは、座長制を本格導入したり、支部会員の報告を年2名以上行うなどの、会員本位の支部例会を開催する方針が報告されました。

県の例会委員会が2011年度議案書(P49)に示した「会員が報告者になっているか？」を十分意識されていることがわかり、何だか嬉しく思います。そして、例会委員会の本題ともいうべきディスカッションテーマは「全国大会への参加促進をいかにすべきか？」について

- 全国大会参加は、会員個々の個人スキルの向上であることを原則とし。費用や日程の個人負担が前提であり、強制力はなきもの。
- 但し、全国大会に参加することで、先進県の同友会活動を知る手段として、有効であり、普段の同友会活動に大きな影響を与える。
- 視野がひろがり、全国の多様な経営感覚を嗅ぎ取ることができる。→全国へ自社や自社製品を知らしめることも可能。→報告・ディスカッションを通じ、自社の経営課題へのフィードバック。
- これまでの長崎同友会会員の全国大会参加者実数の年度平均は10数名にあたり、全国平均を下回ることも事実。

これらをふまえ、参加促進の手段はいかに？

- そもそも、全国大会参加者数を競っているのではなく、参加者数ありきの参加促進は、いかななものか？と疑問。

- 参加者数ありきではないものも、長崎同友会の会員が、全国大会の報告者に招聘・抜擢される場合、あるいは、将来、長崎同友会が全国大会を誘致する場合においても、参加者数は多いほうがいいのでは？

- 具体的な参加促進については？

理事・ブロック長／支部長(ブロック役員)が例会などの会合で、情報提供をし、参加を呼びかけてみてはどうか？

- 全国大会参加者報告の例会が開催できれば、参加促進のオリエンテーションと合致するのでは？

- 直近の全国大会参加予定者が、「一緒にいかがでしょうか？」と呼びかけてみては？

- 全国大会のPR映像DVD化して例会会場で放映してみては？

などなど、多様なご意見、疑問、異議はもちろん、珠玉のアイデアもたくさん出てまいります。

さらに短い時間でしたが、おまけのディスカッションテーマ「質の高い例会、質の高いグループディスカッション」を追加しました。現在、多くの支部例会において「会員の経営体験報告」が高い評価を受けていることがあり、それは、

- 地域の会員企業で、同じ目線の経営規模であることも、自社への参考になっている。

- 異業種交流ならではの「本音」のディスカッションができつつある。

- パネルディスカッション形式の例会を計画し、参加会員の経営の一助になればと考えている。

- 座長などの役割分担を明確にして、一人でも多くの経営体験報告を実現していきたい。

など、支部例会において、たいへん努力されていることも十分伝わってきたかと思います。

私たちの支部例会は、「自分たちが、みんなで創り上げる自前のモノなのだ！」と気持ちが十分に伝わってきました…。ありがとうございました。

参加して下さった皆様

池田繁隆さん、西山展司さん(長崎浦上支部)、飯田義則さん、加瀬和利さん(長崎出島支部)、出口博基さん(大村支部)、福田博文さん、村山和幸さん(諫早支部)、内島範喜さん(島原支部)、尾崎彰宣さん(佐世保支部)、中村寿弥さん(北松浦支部)

(文責 例会委員長 中村 勝志)

仲間づくりについて

- 1) 入会・復会・交代・退会の承認依頼について
入会1名、復会1名、交代1名、退会3名を承認
- 2) 仲間づくりの進捗状況・具体的活動状況について
松尾代表理事－佐世保支部 山領さんがいつも言われていることは、「役員等一部の方だけではなく、皆で取り組みないと成果は上がらない。」です。皆様ぜひ楽しくお願いします。

報告・連絡事項

- 1) 5月 県本部・各ブロック・各支部・各委員会等 活動状況報告
- 2) 例会について（更なる例会の充実をめざして）－中村例会委員長 要請事項－全国大会の参加促進について
ブロック長・支部長による例会開会時の挨拶にて、情報提供も兼ねてほしい。
（「理事は年に1回は全国大会参加しよう」という申し合わせがあるため、ぜひお願いします。）
- 3) 組織検討委員会メンバーと今後の活動について－松田相談役（敬称略）
委員長 加悦明良 松田相談役
大村支部 徳田信義 大塚真一
島原支部 三田茂樹 上田五月男
北松浦支部 山口庄重 荒木大輔
※他の支部からの推薦なし
・現在、委員長とのメンバー選定の最終段階です。
（全体で15～17名を考えています。）
・ビジョン・ブロック制・来期からの経営フォーラムについて検討を重ねていきます。
・今期の経営フォーラムまでには、来期からの経営フォーラムのあり方を、遅くとも12月までにはビジョン・ブロック制の足掛りになる様なものを提示する様にします。
- 4) 中同協関係の件
①主要行事の紹介と参加促進
②九州・沖縄ブロック 支部長・支部活動研修交流会 参加報告－参加者全員
※今後の長崎同友会の発展のための貴重な意見として活用させて頂きます。
③九州・沖縄ブロック 代表者会議報告－松尾代表理事
・松尾代表理事による報告「私と同友会」を受けてのグループディスカッション
④中同協 幹事会（6月2日）報告－松尾代表理事
・東日本大震災復興に向けて
中同協東日本大震災復興対策本部と現地からの報告と提案
これからの影響は計り知れないものがある。
・緊急アピール採択
「地域の再生は私たちの手で」
～連帯の輪で命をつなごう。友は全国にいる～
・グループディスカッション
「大震災の影響が全国に広がる現在の情勢をどう認識し、企業防衛と同友会運動の更なる前進をはかるか」

⑤中同協専門委員の募集結果について（敬称略）

政策委員会：町田澄利（長崎出島）
障害者問題委員会：原田良太（佐世保）
広報委員会：島崎和紀（長崎浦上）
地球環境委員会
社員教育委員会：松田一成（諫早）
企業連携推進連絡会：内山洋二（長崎浦上）
経営労働委員会：町田貴代人（長崎浦上）
女性部連絡会：石橋ゆかり（諫早）
皆様よろしくお願い致します。

協議・承認事項

- 1) 第18回 経営フォーラムについて－川口実行委員長－承認
テーマ「今こそ、つながろう同友会」
～私たちには、すごいチカラがある～（仮題）
開催日 10月28日（金）
会場 ロイヤルチェスターホテル
参加費 7,000円（予算組を含め検討中）
規模 150名
記念講演 柳イトム 代表取締役 小出 宗昭氏
分科会 ①「経営指針」②「経営戦略」③「事業承継」を予定
内山ブロック長－現在未定の項目に關しての承認依頼をメーリングリストでお願いしたい。－承認
- 2) 条例学習会開催と「特別活動費」申請について
－町田政策委員長－承認
※開催趣旨・内容についての説明
「中小企業振興条例」学習会
7月23日（土）長崎インターナショナルホテル（大村）
内容 先進地 千葉県より講師を招いての学習会
講師 千葉県商工労働部経済政策課 副参事兼政策室長 篠崎千尋氏
千葉同友会 事務局長 川西洋史氏
※利便性と大村支部の取り組みが進んでいることから、大村支部に協力頂き、大村での開催を企画。県全体の前進の足掛りとして。
- ※申請額－航空バック代 10万円（5万×2名）
- 3) 組織検討委員会への予算配分について－吉田財務委員長－承認
提案－県央地区において、密な委員会開催が予想されるため、「予備費」より「5万円」を拠出



◆新事務局員紹介

会員の皆様、初めまして。
この度、入局させて頂きました野口久美子です。
事務局員としての活動を通じて、会員の皆様のお役に立てるよう一つ一つ勉強していきたいと思っております。初めのうちは業務に不慣れな部分もあり、ご迷惑をおかけする事もあるかもしれませんが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

会員消息

●住所変更

小濱 新二 会員（大村支部 ㈲ピーシーサポート長崎）
新住所：〒856-0804 大村市大川田町426-2
電話：0957-47-9751
FAX：0957-47-9752

末次 精一 会員（佐世保支部 末次経営研究所）
新住所：〒857-0016 佐世保市俵町6-21
電話：0956-23-7171
FAX：0956-23-7174

●役職名変更

荒木 実子 会員（長崎出島支部 ㈱商工印刷）
旧：代表取締役社長→新：代表取締役会長

会員数（6月3日現在）

	長崎浦上	長崎出島	県南	大村	諫早	島原	県央	佐世保	北松浦	県北	合計
目標	100	100	200	50	80	40	170	100	40	140	510
受付含	87	86	173	41	42	32	115	69	30	99	387

退会者リスト（2011.3～2011.5）（敬称略）

年月日	会社名	会員名	支部名
2011. 3.31	三井住友オートサービス(株)	達 川 康 孝	長 崎 浦 上
2011. 3.31	ベンチャーズファーム	末 光 進	長 崎 出 島
2011. 3.31	高島表装	高 嶋 進	長 崎 出 島
2011. 3.31	(株)テレビ九州長崎営業所	福 田 憲 一	長 崎 出 島
2011. 3.31	(有)スズキインター諫早	日 下 完 治	諫 早
2011. 3.31	(株)カケハシ	棧 宗 利	佐 世 保
2011. 4.30	景照園	松 本 勝 男	長 崎 浦 上
2011. 4.30	(有)武富青写真工業所	中 山 成 利	長 崎 出 島
2011. 5.31	西海水処理(株)	佐々木 兵 太	佐 世 保
2011. 5.31	(株)靴夢	永 田 正 徳	佐 世 保
2011. 5.31	松浦平戸事務所	安 田 成 達	北 松 浦